

全国老施協発第 2412 号  
令和 3 年 2 月 24 日

会 員 各 位

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会  
会 長 平 石 朗  
(公印省略)

### 令和2年度経営戦略セミナー(令和3年度介護報酬改定対応)第3弾について

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会では、令和3年度介護報酬改定に関して特設サイトによる情報掲載、都道府県等老施協を通じた解説動画等の公表により情報共有を図ってきたところです。

この度、厚生労働省より令和3年度改定に係る各種通知(以下、「通知」という)が公表されることを踏まえ、第3弾となる動画公表及び質疑応答のお時間を設けることと致しましたので、ご案内申し上げます。

(参考) [全国老施協 令和3年度介護報酬改定ポータルページ](#)

#### 記

#### 1. 令和2年度経営戦略セミナー(令和3年度介護報酬改定)第3弾の概要

##### (1) 講演動画にかかる情報提供について

- 令和3年3月中旬に公表が予定されている通知の解説も盛り込んだ講演動画について、会員の皆様には無料で公表いたします(非会員の方は12,000円)。
- 公表日は追ってお知らせします。

##### (2) QAセッションについて(3月15日、17日実施)

- ZOOMを用いたウェビナー形式にて、会員の皆様からお寄せいただいたご質問について、厚生労働省担当者や、本会関係者からお答えいたします(図1参照)。
- ご質問内容は、JSWEB110にて随時受け付けております(会員ログイン後、右上にJSWEB110のボタンが表示されます)。
- 当日の参加を希望する方のお申込みは以下URLにより行うことができます。1つのパソコンで複数名が閲覧することは差し支えありません。また、当日のセッション動画は、追って会員ページに掲載し、閲覧頂く形を予定しております。

お申込み URL : <https://is.gd/VtaTcF>



【図1】

時刻等	3月15日実施分	3月17日実施分
議題概要	通所介護・短期入所及び 居宅系サービスに関する質疑応答	特別養護老人ホームに関する 質疑応答
対応演者	厚生労働省 老健局 <b>認知症施策・地域介護推進課</b> 鴻江副会長、榊田委員長、武藤部会長 ※ 詳細な質疑となるため、課長補佐・法令係長クラスにご参画いただく ※ デイサービスセンター協議会等代表者等連絡会の代替とし、デイ協議 会等代表者はぜひご参加ください	厚生労働省 老健局 <b>高齢者支援課</b> 木村副会長、小泉理事、 榊田委員長、石踊部会長 ※ 詳細な質疑となるため、課長補佐・法令係長クラス にご参画いただく
13:30-	接続確認等順次	接続確認等順次
14:00-	開催挨拶（鴻江副会長） ※進行：塚本幹事予定	開催挨拶（木村副会長） ※進行：野上委員予定
14:15-	講演者紹介	講演者紹介
14:20-	通所介護等改定内容の概要紹介 （武藤部会長）	特養改定内容の概要紹介 （小泉理事）
15:00-	休憩	休憩
15:10-	Q&A事項の質問、回答、意見交換	Q&A事項の質問、回答、意見交換
16:20-	参加者からの質疑	参加者からの質疑
16:25-	閉会挨拶（榊田委員長）	閉会挨拶（石踊部会長予定）

## 2. その他本会にて行う予定の情報提供について

### (1) LIFEに関する情報提供

全国老施協では、LIFEが介護の質向上に資するデータベースとなるよう、登録したデータの時系列変化による評価について検証していくため、2021年はLIFEの登録及びデータ提供施設・事業所の拡大を目標として、以下の情報提供を行います。

#### ① [全国老施協ホームページ【随時更新中】](#)

「LIFE（旧 CHASE）の活用」にてLIFEについて、通知等の情報提供をして参ります。また、利用にあたってのQ&Aを掲載いたします。

#### ② [解説動画の配信【3/8 配信開始予定】](#)

厚生労働省による概要説明、LIFEのシステム開発担当から入力など技術的な説明。

#### （参考）LIFEとは

介護保険制度の目的に沿って、質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービス提供の実現を目的とした「科学的介護情報システム」です。（**L**ong-term care **I**nformation system **F**or **E**vidence；LIFE ライフ）

収集したデータは、①全国平均との比較などで構成されるフィードバック情報などのデータに基づくPDCAサイクルを推進し、各現場のケアの質向上に繋げていただくとともに、②介護データベースを構築し分析を行うことで、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの推進や介護報酬での評価に反映していく形で活用されます。

なお、収集項目や指標については、今後も随時見直し等を行っていくこととされています。

以上